



国民の森林・国有林

林野庁
中部森林管理局

〒380-8575 長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



仙丈ヶ岳からの日の出

主な項目	○ 新島局長年頭所感	P 2
	○ 各地からのたより	P 4
	○ 2016年主な出来事	P 6
	○ シリーズ「森林官からの便り」	P 11
	○ シリーズ「ご当地自慢」	P 12



平成二十九年 年頭所感

地域から信頼される国有林に

中部森林管理局長 新島俊哉

新年明けましておめでとうございませす。

皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて、今年には国有林野事業が一般会計化されて五年目の年となります。これまで、公益的機能の一層の發揮とともに林業の成長産業化への貢献等を通じて地域の振興に努めるため、国有林の先導となるべく率先してリスクをとって、伐採・造林一貫作業システムの導入、二ホンジカ被害対策、事業体の生産性向上など、様々な取組を進めてきました。また、昨年、局独自の取組である公共施設の確認に関する地元自治体との協定が管内各地で結ばれたところですが、このような取組を含め、地域の方々と手を取り合いながら、地域との連携を強化していただきたいと思ひます。

本年は、これらのさらなる推進とともに

に、昨年から開始した「多様な森林への誘導」、「A材の需要拡大に向けた取組」、「山地災害対応の強化」について重点的に取り組んでいただきたいと思います。

国有林独自の取組である多様な森林への誘導については、昨年管内3箇所で開催を実施するなど、皆で目的や考え方をしっかりと共有したところです。今年、は実際の事業に反映していくための取組が始まりますが、山をよく見、山とよく相談しながらしっかりと取り組んでいただきたいと思ひます。

次に、A材の需要拡大に向けた取組です。これまでは間伐材を主として、合板・集成材や木質バイオマスの原料などの需要を開拓してきたところですが、今後主伐期を迎え、単価の高い製材用材等として利用可能な木材が多く生産されることとなるため、A材の需要拡大が最重要課題です。また、木質バイオマスについては、末木枝条等が有効活用されるこ

とにより造林コストが大幅に縮減できることから積極的な供給に努めますが、あくまで「カスケード利用」が基本であり、A材やB材として使える木材までを燃料として利用されることのないようにしなければなりません。この観点から

も、A材をA材の価格でしっかりと売り抜くことが重要であり、そのことがひいては地域の資源を守り、地域の森林への資金還元にもつながります。こうしたことを踏まえ、高齢級人工林ヒノキのブランド化の推進やカラマツのブランド化をはじめ、A材の需要の拡大に向けた積極的な取組をお願いします。

最後に、山地災害対応の強化についてです。昨年は4月の熊本地震のみならず相次ぐ台風の上陸により、国内各地で甚大な被害が発生したところですが、こうした山地災害が発生した場合は、県や市町村等との合同によるヘリコプターでの広域的な被害調査を実施することはもち

ろんですが、国有林の被害のみならず国有林の被害に対しても、早期復旧に向けた迅速かつ積極的な対応を行うことが重要です。このため、昨年十二月に山地災害対応強化プロジェクトを立ち上げたところですが、地域の安全・安心に貢献することにより、地元自治体をはじめ、地域の皆様から信頼される国有林となることが私たちのかけがえのない財産になりますので、しっかりと取り組んでいただくようお願いいたします。

結びに、皆様方の今年一年間のご多幸とご健勝を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。





今年の干支は、酉とり

酉をさらに詳しくいうと「丁酉」です。「ひのととり」または「ていゆう」と読みます。

干支十二支の十番目となる酉年は、九番目の干支申まゐと十一番目の干支戌いぬの喧嘩仲裁のために間の十番目になったといわれています。また、酉年の酉は「とりこむ」に通じ商売などには非常に縁起がよいものと言われるそうです。

酉年生まれの特長、洞察力があり、多くの才能に恵まれている。頭の回転が速く、几帳面で集中力があり凝り性な反面、こだわりが強いので理想やプライドが高く妥協が苦手だといわれています。

酉年生まれの有名人をあげますと、



今年は、鳥では無く酉年です

一九三三年（84歳）…穴戸錠、オノ・ヨーコ、高木ブー、一九四五年（72歳）…吉永小百合、タモリ、おすぎとピーコ、一九五七年（60歳）…孫正義、戸田恵子、そのまんま東、一九六九年（48歳）…マルシア、加藤浩二、森高千里、一九八一年（36歳）…柴咲コウ、安達裕美といった方々がいます。

平成二十九年が、色々良いものだけを「とりこんで」平和で穏やかな良い年になることを願っております。

城山史跡の森 小鳥の巣箱
点検作業ほかに協力

「木曾森林ふれあい推進センター」十一月十三日、城山史跡の森倶楽部による城山国有林において実施された、小鳥の巣箱点検作業、ササユリ自生地の整備作業およびカザグルマ自生地のクズ除去作業に当センター職員も協力をしました。

作業当日は晴天に恵まれ暖かく汗ばむほどの中、午前は、小鳥の巣箱点検作業、ササユリの自生地の整備作業に同倶楽部から七名、当センターから職員四名が参加しました。

小鳥の巣箱点検作業は、平成二十一年度から毎年実施しており、森林に多く棲むシジュウカラなどの小型鳥類を対象にした巣箱を設置しています。

今回の作業は、昨年度設置した巣箱四十個を取り外し、地元の方が丹念に作



巣箱の点検・取替え

られた新しい巣箱を四十個設置しました。設置には、来年の繁殖期にこの森で多くの小鳥たちが巣箱を利用してもらえるよう、高さや日の向きなどを考慮して作業を行いました。取り外した巣箱には営巣や利用した形跡のほかに、巣箱一杯にドングリが入っているものもありました。

また、城山史跡の森には、長野県指定希少野生動物植物であるササユリ、カザグルマ等の植物が自生しており、当センターでは城山史跡の森倶楽部と連携しながら貴重な植物の保護等に取り組んでいます。

ササユリ自生地の整備作業は、ササユリ種子の播種作業と、ここ数年、動物によるササユリの食害（特にイノシシ）が見られたことから、本年五月十一日に新たな取り組みとして同倶楽部の会員の皆さんとともに設置した電気柵を撤去する

作業を行いました。設置から毎月一回の見回りをしたところ、電気柵の設置により今年動物による食害は見られませんでした。

午後は、カザグルマ自生地のクズ除去作業に、同倶楽部から二名、当センターからは四名参加して、本年五月十八日に同倶楽部の会員とともに竹製支柱の取り替えを行った箇所箇所のクズの除去と、クズの根株に薬剤処理作業を行いました。この箇所は日当たりがよい道路の法面にあることから、クズに被圧されるのを防ぐために毎年行っています。

例年、カザグルマは五月に、ササユリは六月に開花しており、こうした取り組みが実を結び、両箇所とも来年も可憐な花が咲くことを期待しています。



ササユリ種子の播種作業

大鹿中学校治山教室を開催

「伊那谷総合治山事業所」十一月十四日、下伊那郡大鹿村の大鹿中学校一年生と引率の先生方を対象に「治山教室」を開催しました。昨年の治山教室開催後、校長先生から『第二回も期待しています。』との礼状をいただき、今回の運びとなりました。

当日の午前、生徒達は理科学習の一環として、安康露頭（あんこうろうとう・地質境界としての中央構造線が良好に露出しており、地形と断層がはっきり目視できる場所）で観察と岩石採集を行い、その後、村内にある中央構造線博物館で、学芸員の方から「プレートテクトニクス」の講義を受けました。

午後は小雨交じりでしたが、趣旨に賛同する当所受注者団体「小洪川治山事業所安全協議会」がテントを設営してくださり、大鹿村大原の中洞地区（昭和五十七年に大規模な地滑り災害があった



パネルを使って説明の様子

地区）で治山教室が始まりました。最初に小池所長より、山地災害に備えることの重要性について、大鹿村の地質や災害歴などを交えて解説し、続いて小洪川治山事業所の中屋治山技術官が、森林の持つ公益的機能や治山工事の役割について、パネルを使って説明を行いました。

生徒達は、災害発生当時と森林化が図られた写真を見比べた後、協議会委員にドローンを飛ばしていただき、上空から撮影した中洞地区の現在の映像を見て、治山による森林復旧の効果を確認していました。この他にも、模型を使って治山工事の必要性について説明すると共に、中央構造線の外帯で採取した蛇紋岩（じもんがん）をハンマーで叩いて、同じ岩石でも風化の進み具合で堅さと脆さに違いが生じることを体験していただきました。

肌寒い中、生徒達は説明を聞きながら一生懸命にメモを取り『治山工事が、崩れた山や森林の回復を手助けしていることが分かった。』『同じ岩でも硬いものや、崩れ易いものがあることが分かった。』等の感想を寄せていただき、理科学習を通じて森林や治山について興味を持つていただけたと感じました。

事業所職員として、「山を守ることは、村を守ること。村を守ることは、その村に伝わる伝統・文化も守ること。」であり、治山工事はその役目も担っていること、今回の治山教室で改めて考えさせられました。



蛇紋岩をハンマーで粉碎体験

今後関係機関と協力し、校外学習への参画やPR活動に努め、暮らしを守る治山事業の情報発信を推進していきま

各地からのたより

ニホンジカ食害防除対策 検討会を開催

「岐阜署・森林技術・支援センター」十一月二十五日にケーススタディ（※1）地区の七宗町において、岐阜署、森林技術・支援センター及び岐阜県の共催で、ニホンジカ食害防除対策検討会を開催しました。

各地でニホンジカの食害が深刻化しており、適正な頭数に管理する個体数調整や、造林地へシカを侵入させない、あるいは食害を防止するための防護対策について、国、県、市町村が情報共有を図り、意見交換を行うことにより、各地域でより効果的な対策を行うことが出来る



現地説明の様子

ようにする事を目的とするもので、県職員（林業普及指導員等）十八名、市町村職員八名、国有林職員十二名が参加しました。

午前中の屋内検討会は、岐阜県森林研究所の岡本専門研究員から「ニホンジカ対策の現状と課題について」、岐阜署の松嶋総括地域林政調整官から「国有林におけるニホンジカ対策について」の講義と意見交換を行いました。

午後の現地検討会は参加者を二班に分けて、森林技術・支援センターが設置したシカ対策試験地の現地説明と、くくり罠の実習を行いました。

今後、主伐・再造林を進めるにあたり、ニホンジカ対策は重要であり、低コストで効果が期待できる防除対策や職員捕獲に関する質問が多く出され、有意義

な意見交換になりました。

民国連携で二ホンジカ対策の検討会を行うのは岐阜県で初めての試みであり、今後もケーススタディ地区の七宗国有林をフィールドとして、民国連携の研修会を積極的に開催していきます。

(※1：国有林の森林総合監理士等が市町村への協力を推進するための事例研究地域)

国有林を活用した

研修会の開催

「東信署、森林整備課、技術普及課」

十一月二十二日、長野県林務部主催による「コンテナ苗を用いた伐採から造林までの一貫作業による再造林のコスト低減に向けた研修会」が東信森林管理署管内の伐採・造林一貫作業システム実行地において、県内地方事務所林務課担当者や関係事業体を対象に、総勢二十七名が参加して開催されました。

この研修は、人工林の森林資源が充実する中で主伐等による木材生産を増加させ森林資源の循環を図るため、コンテナ苗を用いて伐採から植栽までの一貫作業における低コスト化の要点を学び、国有林での一貫作業システムの普及とコンテナ苗の使用拡大を図ることを目的に開催したもので、高性能林業機械を活用して伐採・搬出と地拵を同時進行で行い、植栽までを実施する「一貫作業システム」を率先して導入している中部森林管理局

に、長野県から研修会開催の協力依頼があったものです。

研修会では、林務部森林づくり推進課担当者から県内のコンテナ苗の状況説明、東信署及び森林整備課担当者からは事業概要や伐採・造林一貫作業システムによる低コスト化の効果などについて説明しました。

また、国有林のフィールドを活用して伐採・造林一貫作業システムやコンテナ苗の調査研究をしている、長野県林業総合センター担当者から、伐採搬出の生産性や機械を利用した地拵、コンテナ苗植栽等のコストについても説明がありました。

参加者からは、再造林コストに係わる質問等も出され、森林所有者の負担軽減等、森林・林業に関わる地域の課題解決のために、今後も国有林を活用した研修会等を通じて、民国連携した技術の共有を推進していくこととしています。



国有林での研修会の様子

相互の知見・認識共有

課題解決をめざして

「木曾署」十一月二十九〜三十日、木曾森林管理署において、当署職員と各地の国立研究開発法人森林総合研究所研究者の他、木曾地方事務所、長野県林業大学校、静岡県、富山県や地元市町村林務担当者、宇都宮大学の学生、中部森林管理局関係者など約六十名が参加し、第六回「中部森林管理局 森林総合研究所 技術交流会」を開催しました。

この交流会は、木曾谷の国有林において、中部森林管理局及び森林総合研究所をはじめとする各研究機関や大学による様々な試験研究や調査が行われており、事業を推進する上での課題解決や研究と技術開発及びそれらにより得られた成果の普及を図り、相互に知見や認識を共有することを目的とし、平成二十三年度より開催されています。

木曾谷の国有林には、世界的に見ても非常に貴重な森林である温帯性針葉樹林がまとまって分布しており、この温帯性針葉樹林を保存・復元することを目的とした「木曾悠久の森」が設定され、多くの試験や研究が行われています。

また、国内でも有数の木材生産地でもあり、木曾ヒノキをはじめとする天然林や高齢級人工林が分布し、研究機関や研究者にとって非常に興味深いフィールドでもあり様々な調査研究結果について発

表が行われました。

技術交流会二日目は東濃森林管理署管内で行われた、中部森林管理局森林整備課主催の多様な森林づくりに向けた現地勉強会に合流し、現在進められている多様な森林づくりの手法として、針広混交林化に向けた有用広葉樹の存置や天然更新を活用する方法などの手法や知見について認識を共有しました。

二日目は技術研究発表会が行われ、森林総合研究所からは、天然更新を検討する上で課題となっているササに関し、地はぎによるササ処理と更新樹種の調査、当署管内の赤沢ヒノキの動態、暖温帯ヒノキと比べた更新の傾向、菌害による更新への影響、また、先進的なレーザー計測器による森林調査について発表が行われ興味深い話題が提供されました。

木曾森林管理署からは、伐採跡地の更新過程調査、高齢級人工林ヒノキのブランド化、人材育成に関する取り組み、木曾森林ふれあい推進センターからは木曾谷支援の取り組みについての発表を行いました。

それぞれの課題について関係者から多くの質疑があり、有意義な意見交換の場となりました。

今回の交流会を通じ参加者からは、「木曾ヒノキの更新や管理技術をはじめ、森林の管理・利活用を巡る技術的課題について情報共有し率直に意見交換できることが大切」、「森林の維持管理には天然

二〇一六年 主な出来事

◆1月◆

- 19 天竜署・静岡県天竜山林局・国交省 段戸国有林伐造一貫検討会(愛知所)
- 21 平成27年度国有林モニター会議 (中部局)



課題について質疑の様子

更新だけでなく、考え得る様々な可能性を
実証的に明らかにする必要がある、今
回報告された取り組みについても今後の
展開や施業につながるよう協力してい
きたい」ほか、様々な感想が寄せられま
した。

また、発表者からは試験研究結果を事
業の担当者や地域の関係者にプレゼンで
きることは貴重な機会、今後も継続して
開催していただきたいとの要望もありま
した。

当署としても、この交流会を継続して
開催し、広く試験研究成果の普及、知見
や認識を共有していきたいと考えていま
す。



モニター会議の様子

- 25 森林・林業基本計画にかかる地方
意見交換会 (中部局)
- 26 愛知県林業普及指導研究発表会で段
戸国有林伐造一貫作業システム発表
(愛知所)
- 28 富山県砂防治山連絡調整会議
(富山署)
- ◆2月◆
- 2 県市町村と合同のヘリによる雨水被
害の緊急調査 (中部局)



ヘリに乗り込む調査職員

- 2 平成27年度飛騨地域林政懇談会
(飛騨署)
- 2 中部森林技術交流発表会
(3中部局)



中部技術交流会で発表の様子

- 4 平成27年度第3回森林管理署長等会
議 (5中部局)

◆3月◆

- 9 先進林業機械現地検討会 (北信署)
- 10 中央アルプス食害対策協議会設立
(南信署)
- 16 中部森林管理局・森林総合研究所
技術交流会 (17木曾署)
- 24 国有林の地域別の森林計画等検討会
(中部局)
- 25 内閣人事局齋藤参事官現地視察
(26中部局管内)

- 3 地域有識者による「裏木曾エコー
リズム研究会(仮称)」を立ち上げ
(東濃署)
- 4 治山・林道工事コンクール表彰式
(中部局)
- 4 埼玉式シカ柵勉強会(段戸125林
班)
(愛知所)



シカ柵設置体験

- 8 生産性向上実現プログラム
取組結果発表会 (中部局)

(7) 平成 29 年 1 月

- 9 平成 27 年度第 2 回木曾悠久の森管理委員会地域振興専門部会、平成 27 年度第 3 回木曾悠久の森管理委員会植生管理専門部会 (木曾署)
- 11 林政協議会 (千曲川上流域) (東信署)
- 11 第 3 回全国木育サミット (塩尻市) (東信署)
- 15 社会貢献活動署長感謝状贈呈式 (東濃署・北信署)
- 17 公共事業木質土木用材使用優良事例工事受賞 (木製校倉谷止工等) (北信署等)
- 17 南北八ヶ岳保護管理協議会 (東信署)
- 23 長野林政協議会第 3 回幹事会 (中部局)
- 23 東三河流域林業活性化協議会及び東三河流域国・県・市町村連絡会議 (愛知所)
- 30 立山弥陀ヶ原火山防災会議 (富山署)



表彰式後の発表者とアドバイザーの方々

◆ 4 月 ◆
2 諏訪大社上社・下社山出し (10 南信署)



木落坂を豪快に滑り落ちる御柱 (下社)

- 4 林野庁次長管内視察 (5 愛知所)
- 9 朝倉川 530 運動で永年継続参加団体として表彰される (愛知所)
- 11 イラン国参加型森林草地管理プロジェクト実施能力強化実務者研修受入 (12 中部局・北信署)



新島局長を表敬

◆ 5 月 ◆
19 平成 28 年度事業概要の記者発表 (19 中部局・20 名古屋事務所)

- 21 長野林政協議会幹事会 (中部局)
- 22 「小海町御柱の森」協定締結 (東信署)
- 25 平成 28 年度第 1 回森林管理署長等会議 (26 中部局)
- 28 清万採種園花芽調査 (東信署)
- 29 木曾路・赤沢自然休養林トレッキンググパズルラリー (ふれセン)
- 3 「つけち森林の市」 (5 東濃署)



開会式の様子

- 8 軽井沢どんぐり返し (東信署)
- 11 長野林政協議会第 1 回総合委員会・林政連絡会議 (中部局)
- 12 ヒノキコンテナ苗植栽後の検証現地検討会 (技術セ・岐阜署)



様々な植栽機器を手に取る参加者

- 17 天竜森林管理署の事業成果発表会で伐造一貫作業システム等を発表 (愛知所)
- 21 南木曾町合同植樹祭・木曾郡植樹祭 (南木曾支署)
- 22 全国植樹祭 (松川町会場)
- 22 飯田下伊那地区植樹祭 (南信署)
- 22 全国植樹祭プレ大会 (富山署)
- 23 第 1 回中部森林管理局保護林管理委員会及び現地検討会 (24 中部局、東信署及び北信署管内)
- 25 森林管理署次長会議 (26 中部局)
- 25 木曾の国有林見学会 2016 春季 (名古屋、ふれセン)
- 26 清万採種園着果調査 (東信署)
- 28 佐久地区森林祭 (東信署)
- 28 全国植樹祭 (岡谷市会場) 諏訪地区県民植樹祭 (南信署)
- 28 大桑村合同植樹祭 (南木曾支署)
- 31 主要事業計画の地元市村説明及び意見交換会 (飛騨署)

◆6月◆

- 1 白川村要望懇談会
(村長、村議、県議) (飛騨署)
- 2 平成28年度第1回木曾悠久の森管理委員会森林総合利用・地域振興専門部会 (3木曾署)
- 3 林野庁長官管内視察 (5 東信署・北信署)
- 4 第45回全国林業後継者大会 (飯山市) (長野市)
- 5 全国植樹祭 (長野市)



天皇陛下の「お手植え」の様子

- 10 木曾谷流域森林整備推進協議会 (木曾署)
- 14 地方農政局長・森林管理局長等会議・及び森林管理局長等会議 (農林水産省)
- 15 平成28年度第1回木曾悠久の森管理委員会森林資源利用専門部会 (16木曾署)
- 19 戸隠ふれあいの森植樹祭 (北信署)
- 20 飛騨地域林政懇談会 (飛騨署)
- 21 富山県林政協議会・林政連絡会議 (富山市)
- 27 請負事業体安全対策協議会を設立 (東信署)
- 28 高山植物等保護対策協議会木曾地区協議会総会 (木曾署)
- 30 JAXA深宇宙探査用地上局建設立科国有林で起工式 (東信署)
- 30 高山植物等保護対策協議会北信地区協議会総会 (北信署)



「120年に一度」ササ(スズタケ)一斉開花

- ◆7月◆
- 1 「山の日」制定記念企画展「山岳写真展」 (8/16名古屋事務所)
- 2 信越トレイルクラブ協定イベント (3北信署)
- 5 林野庁監査 (8東濃署・南信署・中部局)
- 6 「山の日」を前に「森から見た日本」シンポジウム (名古屋事務所)
- 8 徳川林政史研究所研修会 (名古屋事務所)
- 12 平成28年度第1回木曾悠久の森管理委員会 (13木曾署)
- 14 高山植物等保護対策協議会 (中部局)
- 20 高山植物保護パトロール開始 (8/19) (富山署)
- 19 岐阜市・山県市・本巣市の森林管理委員会合同研修会 (国有林でのコンテナ苗の生育状況等) (岐阜署)



総会の様子

- ◆8月◆
- 27 木造公共建築物見学会 (中部整備局、名古屋事務所)
- 30 岩村城清掃活動に職員参加 (東濃署)
- 3 富山県地域振興団体協議会、国有林野等振興部会 (富山署)
- 4 教職員を対象とした森林・林業学習会 (ふれセン)
- 5 高山植物保護管理協議会パトロール (東信署・北信署)
- 5 「夏休み！木で遊んでウクレレ・ランチコンサート」 (名古屋事務所)
- 5 飛騨地区女性林業技術者情報交流会 (飛騨署)
- 7 山の日制定記念イベント「とやまの山岳環境整備ボランティア」 (富山署)
- 26 森林整備の低コスト化に向けたブロッコリー別研究会 (中部ブロッコリー)
- 26 民国連携した低コスト造林(シカ被害対策)現地検討会 (南木曾支署)



シカ柵の性能や設置方法の説明の様子

- 10 林野庁長官管内視察
(～11中信・南信署)
- 10 第1回「山の日」記念全国大会
(～11中信署)



上高地の記念式典でごあいさつされる皇太子殿下

- 11 山の日・下呂市みどりの祭(岐阜署)
- 11 なかつがわ「山の日(サンデー)」
(東濃署)
- 19 立山美化清掃大会開催
(富山署)
- 18 公共施設の確認に関する自治体との協定を締結(中津川市、恵那市)
(東濃署)
- 23 国有林モニター会議現地見学
(南木曾支署)
- 24 小川村森林のクラブ管内視察
(北信署)
- 25 林業活性化議員連盟総会(塩尻市)
- 25 「夏休み親子体験セミナー」
(名古屋事務所)



森林で仕事をするための装備で説明の様子

- 27 富士見森林祭り2016 (南信署)
- 27 庁舎耐震工事のため仮庁舎へ移転
(～28、29日から仮庁舎での業務開始)
(東信署)
- 31 富山県林政協議会現地研修(富山署)
◆9月◆
- 1 中部森林管理局総合防災訓練
(中部局)



実際の災害時を想定して本部設置(訓練)

- 6 技術者育成研修中部ブロック研修
(森技セ)

- 7 国有林材供給調整検討委員会
(～8中部局)
- 7 長野県治山技術研修(講師派遣)
(中部局)



地すべり防止工事の集水井の見学

- 13 地方農政局長・森林管理局長等会議・及び森林管理局長等会議
(農林水産省)
- 13 作業道現地検討会
(～15中部局)
- 16 コンテナ苗現地検討会
(飛騨署)
- 15 三峰川上流の国有林見学会
(南信署)
- 24 水の学び舎ツアー
(富山署)
- 26 国有林野等所在市町村長有志協議会
(南信署)
- 26 乗鞍山麓五色ヶ原の森自然保護審議会(現地調査及び審議会)
(～27飛騨署)
- 28 国有林記者クラブ富山署管内視察
(～29中部局)
- 29 第2回中部森林管理局

- 30 保護林管理委員会
(中部局)
- 30 緑のオーナー友の会現地見学会
(中央アルプス・千畳敷)
(中部局)
- 30 「木曾悠久の森」見学会
(上松町・ふれセン)

◆10月◆

- 2 長野県総合防災訓練(佐久市で開催)東信署職員参加
- 4 平成28年度第2回入札等監視委員会定例会議及び入札視察
(中部局)
- 4 漁民の森づくり活動
(愛知所)
- 4 南木曾町行政懇談会
(南木曾支署)
- 5 「木の日」木材利用要請活動
(3ヶ所で実施、名古屋事務所)
- 6 技術者育成研修中部ブロック研修
(森技セ)
- 6 事業担当部長会議
(～7林野庁)
- 6 岐阜地区国有林野等所在市町村長有志協議会
(下呂市)
- 6 森林総合監理士等連携会議
(～7 東濃署)
- 6 富山県地域振興団体協議会現地視察
(富山署)
- 11 第53回林道研究会発表会
(～12中部局)
- 12 金曜会東信署管内視察
(中部局)
- 12 森林計画検討委員現地視察
(南木曾支署)
- 13 国有林野等所在市町村長木曾有志連絡協議会
(木曾署)
- 13 「木づかい推進月間」協賛シンポジウム
(名古屋事務所)

- 25 25 林政ジャーナリスト視察 (26木曾署)
- 25 架線集材等現地検討会 (27中部局)
- 25 国有林野等所在市町村長有志連絡協議会 (中信署)
- 24 各県合同治山事業連絡調整会議 (中部局)
- 22 2016木トピア (愛知所)
- 22 御岳の自然と江戸時代のヒノキを見に行こう (国有林見学ツアー) (岐阜署)
- 19 第2回森林管理署長等会議 (中部局)
- 18 平成28年度第2回木曾悠久の森管理委員会植生管理専門部会兼第1回木曾生物群集保護林復元部会 (中部局)
- 16 「遊々の森」間伐材搬出イベント (南信署)
- 14 森林ボランティア・NPO連携推進会議・ふれあいフェア (15南信署・ふれセン)
- 14 国有林野等所在市町村長有志連絡協議会 (東信署)



鼎談の様子

- 1 国有林作業現場見学会 (名古屋事務所)
- 1 平成28年度第2回木曾悠久の森管理委員会森林総合利用・地域振興専門部会 (中津川市)
- ◆11月◆
- 31 近中局合同地すべり現地検討会 (中部局)
- 30 富士見ふれあいの郷交流会 (南信署)
- 28 国有林野管理審議会 (中部局)
- 28 三浦実験林現地講習会 (木曾署)
- 27 国有林等に所在する公共施設の確認に関する協定締結 (下呂市・岐阜署)
- 27 国有林見学会2016秋季 (名古屋、ふれセン)
- 26 石川県白山市森林・林業振興推進会議現地視察 (阿多粕国有林) (飛騨署)
- 26 岐阜県フォレスト協会設立 (岐阜署)
- 26 国有林野等所在市町村長有志協議会 (北信署)
- 27 木曾の国有林見学会2016秋季 (名古屋、ふれセン)



歓迎の挨拶



模型を使って説明の様子



伐倒手段や概要など説明の様子

- 1 高山村官行造林売買契約調印式 (北信署)
- 2 国有林等に所在する公共施設の確認に関する協定締結 (飛騨署)
- 2 中津川市議会議員「木曾ヒノキ備林」を視察 (東濃署)
- 3 伊那谷森林計画区地区懇談会 (南信署)
- 6 木曾川森林計画区地区懇談会 (東濃署)
- 7 平成28年官房下期監査 (11飛騨署・富山署・中部局)
- 8 木曾川流域等所在市町村長有志協議会・現地視察 (中津川市)
- 8 岐阜労働局新任監督官の実地訓練受け入れ (岐阜署・技術セ)
- 8 全国木材産業振興大会開催 (富山署)
- 13 東三河森林計画地区懇談会 (愛知所)
- 14 収穫調査効率化の取組 (中部局)
- 15 平成28年度第2回木曾悠久の森管理委員会森林資源利用専門部会 (16大桑村ほか)
- 21 中部森林管理局国有林野等所在市町村長有志協議会 (松本市)
- 22 林野庁本郷国有林野部長管内視察 (木曾署)
- 22 長野県職員の現地研修 (東信署)
- 24 南木曾町議会意見交換会 (南木曾支署)
- 24 第2回中部地区需給情報連絡会議 (名古屋市)
- 25 ニホンジカ食害防除対策検討会 (岐阜署・森技セ)
- 25 白川村議会等意見交換会 (飛騨署)
- 28 辰野町と「国有林に隣接する公共施設の確認に関する協定」締結式 (南信署)
- 6 国有林材供給調整検討委員会 (中部局)
- ◆12月◆

(中部局)

8 国有林モニター会議現地見学
(名古屋事務所)

13 国有林野事業業務研究発表会で、「立木利用シカ柵の設置試験について」を発表
(東濃署)

14 山地災害対応に関する研修会
(中部局)

14 山地災害対応に関する研修会
(中部局)



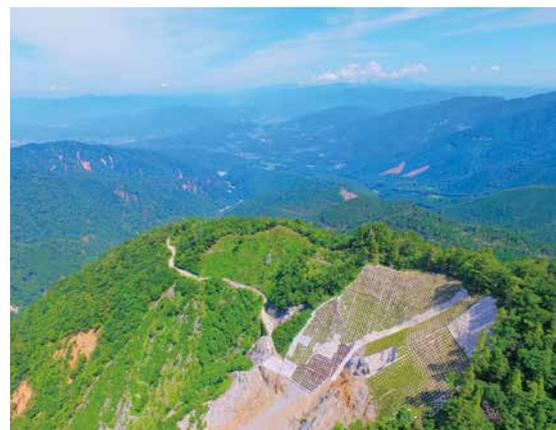
ワークショップの様子

シリーズ 「森林官からの便り」

〔東濃森林管理署 中津川治山事業所〕

治山技術官 山岡直樹

中津川治山事業所は中津川市内の落合恵那、中津恵那、阿木恵那、湯舟沢国有林内の治山事業を担当しています。事業所の位置する坂本地区は、平成三十九年開業予定のリニア中央新幹線岐阜県駅の計画地となっており、周辺整備の構想等



姥ナギ沢と市街地遠望 (UAVによる撮影)

が進められ徐々に盛り上がりを見せている地域です。

各治山事業地は日本百名山の一つ恵那山(標高二、一九一m)の裾に位置し、標高一、〇〇〇〜一、四〇〇m近くの山腹崩壊地が中心となっています。

恵那山周辺の山腹崩壊地に見られる大きな特徴は、マサ土と呼ばれる地質による表層崩壊が多いことです。マサ土は花崗岩が降雨や凍結融解により風化し砂質化したものですが、一度崩壊が発生すると土砂流出を続け、植物が活着しにくく

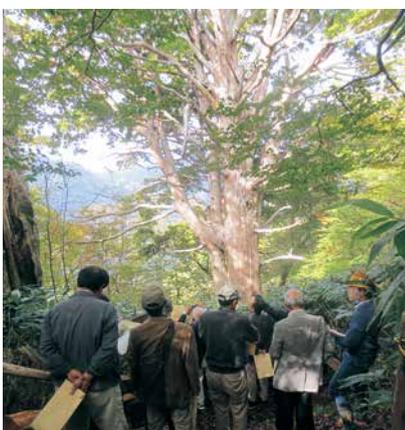


ロッククライミングマシンによる法面整形

自然復旧が図られにくい状況となります。管内の治山事業はこのマサ土との戦いで、古くから崩壊地に対する多くの工法の試行錯誤を繰り返して、復旧と緑化がなされてきました。

事業地の中でも標高が高く、厳しい自然条件にさらされる現場の一つとして「姥ナギ沢」があります。「ナギ」とは「なぎ倒す」を語源にされたとも言われており、古くから崩壊の様相を呈していたと考えられます。また、中津川市街地から遠望できる大規模崩壊地であるため、市民の皆さんからの関心も高く、平成七年から着手して現在も継続して復旧事業を進めています。姥ナギ沢崩壊地は高低差約三〇〇m、最大傾斜約六〇度になる長大で急峻な崩壊地であるため、ロッククライミングマシンを採用して法面の整形等を行っています。

崩壊地の立地条件から、これまで全景写真の撮影はヘリコプターからに限られていましたが、今年度の施工ではUAV



巨樹・巨木百選の一つ「神坂大榎」



来現者に事業地の説明をする筆者(一番右側)

(ドローン)を使った空中撮影をしました。撮影された静止画と動画により、崩壊地全景とともに細部まで現況を把握することができ、このような崩壊地や立入が制限されるような災害現場では非常に有効であると感じました。また、事業地は保安林管理道の整備によりアクセス性が良いため、国有林治山現場の視察等で例年多くの方が訪れます。秋には東山道もみじ祭りの一環でこの保安林管理道をウォーキングし、巨樹・巨木百選の「神坂大榎」とともに、治山事業地を見ていただいています。(通常、事業地内は一般開放していません)

管内には多くの崩壊地が存在し事業の終わりはなかなか見えませんが、治山事業も森づくりの一つであることから、一般の方々へ治山事業をPRしつつ、請負業者の方々も土木技術者であるとともに森林技術者であることを意識していただくことが重要だと思います。安全を最優先に、引き続き下流の安全・安心を守る治山事業を行っていきたくと考えています。



こもれびの滝、不易の滝や百間

この遊歩道は、三百年を超える木曾ヒノキ、サワラなどの大木が生い茂る森には、遊歩道が整備されています。

◆油木美林 (黒沢御岳国有林)
御嶽山の裾野に広がる油木美林は、かつて尾張藩の藩有林、そして御料林、国有林と変遷をたどってきました。樹齢

御嶽の里三岳は、長野県西部の木曾町にあり、平成十七年十一月に四町村が合併し木曾町となる以前は三岳村と呼ばれていました。三岳という名前の由来は、御嶽山・乗鞍岳・木曾駒ヶ岳の三つの名峰が見られることから名付けられたと言われています。今回のご当地自慢は、御嶽の麓に広がる美しい三岳の見所を紹介



滝などを眺めながら御嶽山の七合目まで続いています。(こもれびの滝から続く心臓破りの九十九折りの歩道にぜひ挑戦してみてくださいいかがでしょう。)

御嶽山が育んだ水や緑に触れながら森林浴・バードウォッチングなどを満喫することができます。

◆御岳ロープウェイ

全長二、三三三メートル、三岳高原から七合目までを結ぶ六人乗りの「空の足」。標高二、一五〇メートルの山頂駅舎からは、木曾駒ヶ岳をはじめとする中央アルプスのほか、乗鞍岳、穂高岳、槍ヶ岳、八ヶ岳、浅間山などの大パノラマが楽しめます。また、春から秋へと移り変わる四季それぞれの美しい景観も魅力的で、山頂駅からは御嶽山や油木美林へのアクセスにも便利です。



◆百間滝

油木美林から少し上がったところにこの滝があります。周囲の樹木の高さから推測すると落差は五十メートルありそうです。御嶽山からの雪解け水が白い筋となり落ちる風景に心が洗われるようです。

◆不易の滝

名前の由来である不易とは、永遠にその姿を変えないという意味であり、太古の時代からその「容姿をかえぬ」と名付けられたのも納得です。不易の滝を眺めると、まさに太古の昔にタイムスリップした気分になり、自然の偉大さに感動させられます。また、この滝の近くにはこもれびの滝があり、違った魅力を持つ滝も見ることができます。



◆太陽の丘公園

太陽の丘公園は、太陽系から地球が生まれて生命誕生までの悠久の歴史をイメージして造られたテーマパークです。「原始の地球」「太陽の丘」「生き物の移り変わり」の三つのゾーンから形成されており、御嶽山産出の巨石などを用いて地球に生物が登場してから現在までの生物の進化を表現しています。



○木曾町三岳へのアクセス(御岳ロープウェイ)

・公共交通機関

JR中央線木曾福島駅からバスで六十分

・自動車

中央道中津川ICから車で百二十分、中央道伊那ICからで八十分